

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報

第253号  
2014年11月



一般社団法人  
大学女性協会



2014年度 JAUW 公開シンポジウム 11月8日(土) 日本女子大桜楓 2号館にて

## もくじ

### 〈全国シンポジウム報告〉

全国シンポジウム 梅田企画委員長あいさつ…	2	委員会・支部事業報告……………	8
基調講演 講話……………	3	支部だより 北から～南から 広島・栃木支部…	9
世界の女性との連携……………	4～5	新春のつどい、自然科学講演会案内 ……	10
ヒューマンストーリー……………	6	事業委員会お知らせ・社会福祉委員会見学記	
本部からの報告……………	7	新入会員、理事会から	

## 2014年度 JAUW 公開シンポジウム

# 「女性の自立とは？」

主催：一般社団法人 大学女性協会      日時：2014年11月8日(土) 10:30~16:40  
 会場：日本女子大学教育文化振興桜楓会 桜楓2号館      後援：内閣府男女共同参画局

企画委員長 梅田 和子

本年度の公開シンポジウムは「女性の自立とは？」という古くて新しいテーマで、開催いたしました。

“女性が真(ほんとう)に輝く社会”を形成するためには「女性の自立」が前提ですが、配偶者控除は女性の自立の妨げになっているか？女性と税制を含め、「女性の働き方」を探るシンポジウムでした。男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな施策が進められてきました。法制度はある程度整いつつあるといわれていますが、本当に実りのある制度でしょうか？

依然として女性の不安定な在り様は社会問題として根深く、性別役割に固執する社会通念が残存しています。女性が真に働く上で、103万円や130万円の壁、非正規雇用などの就業問題、特に若い女性の貧困問題、それに関連しての子どもの貧困など、社会のひずみが顕著になって、女性の自立は益々困難な状況を呈しています。

このような状況を如何に打破するかを、みなさまと考えたいと思い、敢えて「女性の自立」について、をテーマに選びました。

基調講演はジャーナリストで和光大学教授の竹信三恵子氏に、講話は経済産業省中小企業庁創業・新事業促進課長で、女性の活躍を中心としたダイバーシティ経営の推進等に取り組みされている、4女の母親でもある坂本里和氏に依頼しました。広い視点から、多くの問題点の指摘がありました。

パネルディスカッションは「女性の働き方を考える」と題して、自力で芸能プロダクションを立ち上げられた吉川愛美氏、茨城支部会員で産業技術総合研究所主任研究員大矢根綾子氏に加え、私が定年まで民間企業に務めた経験を織り交ぜ、さまざまな角度から議論しました。コーディネーターは女性エンパワーメント委員長の城倉純子会員が務め、女性が充実感を持って、働くということの難しさと楽しさも感じたシンポジウムでした。

来年は今年議論された問題をさらに深めたセミナーを開催したいと思っています。

詳しくは後日発行の報告書をお読みください。

### シンポジウムプログラム

	総合司会 企画委員長 梅田和子
10:00~	開 場
10:30	開会の辞 縄田真紀子(実行委員長)
10:35~11:00	挨拶および趣旨説明
	会 長：中村久瑠美
11:00~12:00	講 話「成長戦略としての女性活躍の推進」
	講 師：坂本里和氏(経済産業省 中小企業庁 創業・新事業促進課長)
12:00~12:30	IFUW アジア地域ワークショップ報告
	報告者：CIR 国際ネットワーク担当理事 山下いづみ
12:30~13:30	昼食・休憩
13:30~14:30	基調講演「女性の経済的自立はなぜ進まないのか～家事労働ハラスメントの視点から」
	講 師：竹信三恵子氏(和光大学教授 ジャーナリスト)
14:30~14:45	休 憩
14:45~16:30	パネルディスカッション「女性の働き方を考える」
	パネリスト
	◆(株)愛企画 代表取締役 吉川愛美氏
	◆JAUW 副会長 梅田和子
	◆(独)産業技術総合研究所主任研究員 大矢根綾子氏(茨城支部会員)
	コーディネーター 女性エンパワーメント委員会委員長 城倉純子
16:40	閉会の辞 梅田和子(企画委員長)

## 基調講演

和光大学教授 竹信 三恵子氏

## まず日本の現状を知ろう 家事労働ハラスメント社会の働き方



2009年度の日本のHDI（人間開発指数）は世界の109カ国中10位であるが、GEM（ジェンダー・エンパワーメント指数・2009年度で終了）57位、GGI（ジェンダー・ギャップ指数）101位。なぜ、経済成長をしたにもかかわらず、女性の

底上げにつながらなかったのか。

女性給与所得は国税庁「民間給与実態統計調査」によると1996～2009年の間年収300万円以下が60%以上の割合を占め、男女雇用機会均等法が施行される前は80%だったことを示している。また、働く女性の56%が非正規で賃金は男性正社員の半分。このことは男女雇用機会均等法ができたにもかかわらず賃金格差はなくなっていないことを示す。

男女雇用機会均等法の問題点はなにか。年金制度、男性の長時間労働と家事労働蔑視（家事ハラ）も背景に考えられる。週50時間以上の労働者は日本がトップ。3人に1人が50時間以上働いている。妻が家事労働をしてくれることが前提になっている。これでは女性は非正規にならざるを得ない。正規社員になった人は結婚出産などを先送りし、また、家事労働サービスを受けられる人、主夫になってくれる夫を持つ、親を頼ることができる人などである。正社員になるために男女の雇用の平等、福祉の改革が必要になる。

産業構造は変わった。団塊の世代は退職し、建設、製造の就業人口が減った。女性はその穴を埋めても、デフレのため賃金は上がらず、経済的自立ができない。女性の貧困が問題になる。貧困者の70%が女性になっている。日本型の福祉制度に問題があることがわかる。

アベノミクスは女性の二重負担が増え、非正規も正規も負担がふえる懸念がある。家事労働の行政などの再分配、制度設計を行い、外国人の受け入れの制度を充実させる。「標準労働者像」の転換を図らなければならない。

## 講話

中小企業庁創業・新事業促進課長 坂本 里和氏

## 成長戦略としての女性活躍の推進



〈日本の女性就業の現状〉

育児期に女性の就業率が下がる「M字カーブ」が残り、管理職・役員比率も先進国中最低レベルにある。最近、若年層の非正規が増えていること、第1子出産期に約6割が離職する状況が続いている

こと等も問題である。女性の就業と少子化の問題の共通要因として、「仕事と育児」の二者択一の問題がある。

〈女性活躍推進がなぜ成長戦略なのか〉

女性の就業希望者は約300万人おり、就業促進による経済効果は大きい（GDP1.5%から16%まで試算は様々）。女性の就業促進が日本の経済成長にとって不可欠の課題であるという認識は広く共有されている。他方、個々の企業にとって「ダイバーシティ（多様な人材活用）」は、市場ニーズやリスクへの対応力など、経営上メリットのあるものだという認識は、まだ浸透していない。実証研究により、意思決定層のダイバーシティと企業の業績の間にプラスの相関があることは示されている。

〈最近の政府の動き〉

安倍総理は、「女性活躍は成長戦略の中核」であるというメッセージを繰り返し出しており、「日本再興戦略」の大きな柱となっている。

〈経済産業省の取組〉

「量の拡大」だけでなく、「質の向上」を図るべく、ダイバーシティ経営の推進に力を入れている。「ダイバーシティ経営企業100選」と「なでしこ銘柄」が2本柱である。

〈女性の働き方に中立的な制度整備〉

既婚女性の年収分布を見ると100万円付近に「カベ」があることは明らか。配偶者特別控除により、税制上のカベ（世帯所得の逆転現象）は解消されているが、企業等の配偶者手当と社会保険の第3号被保険者制度によるカベは残っている。

# 世界の女性との連携

## IFUW アジア地域ワークショップ： メンバーシップと可視化の構築

CIR・国際ネットワーク理事 山下いづみ

去る6月29～30日、シンガポールで国際大学女性連盟(IFUW)アジア地域のワークショップが開催された。香港、インド、インドネシア、ネパール、タイ、シンガポール、そして日本の7カ国13名が集まった。日本からは中村会長と私、山下が参加をした。IFUWの事務局長のDanièle Castelと国際開発マネージャーのCaroline Staffellによるワークショップが朝から晩までホテルに缶詰で丸2日間行われた。

目的はタイトルが示す通り「メンバーシップと可視化の構築」これはIFUWの加盟協会の活動が外部によく理解され、会員、賛助会員が増えるにはどうしたらよいかをワークショップを通して、実践的に学ぶこと。日本の大学女性協会の現状をみても、近年、会員減少が著しい。そしてもう一つの目的は、アジア地域加盟国が連帯感を持つこと。

ワークショップでは1. SWOT分析(組織の強みと弱み、外部との関わり) 2. PESTLE分析(政治、経済等、多角的状況からの組織の活かし方) 3. ターゲット&区分け 4. 会員エンゲージメントの段階 5. マーケティング 6. 会員エンゲージメントのレベル 7. 利害関係者マップ 8. プロジェクト&組み立てが行われた。ワークショップの最後には、各国が会員拡大に向けて目標設定をした。日本は中村会長が2016年総会までに100人会員増をすると

発表した。目標に向けて、JAUWでは会員拡大特別委員会が設置され、本部、支部とも行動できるように進めていくこととなった。皆様、頑張りましょう！

ワークショップ終了後の2日目の夜は「アジアにおける女兒&女性の教育アクセスの増加：成功のための解決」と題して、シンポジウムが開催された。登壇者はIFUW事務局長のDanièle Castel、UNウィメンシンガポール委員会執行委員のGeorgette Tan、シンガポール大学女性協会会長のIrene Boey、ジェンダー問題の自主開発コンサルタントのTheresa Devasahayam。教育にアクセスすることは、人権、経済効果、人間発達、平和と持続に必要な不可欠である。現状1億3千万人の子供たちが学校にいない。そのうち70%は女兒である。アジアではどのように教育の壁をやぶることができるか。それぞれの立場、経験から話しをされた。

短い期間ではあったが、顔を突き合わせて他国の会員と話しあいができ、親近感、連帯感を感じ良かった。IFUWアジア地域の発展を望む。



## 「国際会議参加支援に関するお知らせ」 国際ネットワーク委員会から

西村寿美子

国際ネットワーク委員会の主な事業である国際会議参加支援事業は、定款第5条3項に規定する「国際協力のための国内の女性人材育成」の理念に基づいて、海外における国際会議(IFUW、UWA、CSW)に参加し、発表・研修する女性を支援するものです。

大学生もしくは大学卒の女性であれば、どなたでも応募できます。選考は担当理事を含む国際ネットワーク委員会が行い、理事会の承認を得て選考された方に交通費等の支援金を給付します。

また、参加する国際会議に関する学習会をはじめ、国際感覚を育成するための講演会を一般公開として随時開催します。選考された方はこれに参加し、会議に参加した成果

を会議終了後3か月以内に本協会に提出することが義務付けられています。

候補者の募集は、会報・ホームページを通して公募により行います。

応募者は、HPの「JAUW国際会議参加支援希望者募集要項(全会議共通)」をご参照のうえ、所定の申請書(ダウンロードしてください)を本協会の本部宛提出(郵送可)してください。

第59回NGO CSW Forumは下記のとおり開催されます。

会期：2015年3月9日(月)～20日(金)

会場：ニューヨーク国連本部および近隣会場

テーマ：1995年第4回世界女性会議において採択された「北京宣言と北京行動綱領」の成果と課題についての点検  
募集期限10月24日現在、受け付けは終了しました。

## ケニアとタイより奨学生来日

国際奨学委員長 廣田 里子

前号でお伝えした2人の国際奨学生が9月11日と30日に来日、千葉大学と大阪市立大学に落ち着き、早速、予定の研究に着手しました。

オルガさんは母国ケニアの学校や家庭など身近な環境で採取したカビのサンプルを持参しました。カビの代謝産物は黄疸など急性肝障害や肝ガンの原因物質で強い毒性を持ちます。熱帯に属するケニアは主食の穀物に付着するカビの蔓延で何度も痛手を受けています。人や家畜への直接的な被害に加え、汚染穀物の輸出不能による経済的打撃も無視できません。オルガさんは研究の目標を、持参したサンプルによるカビ病発症のメカニズムの分子生物学的な解明におき、まずは分析機器の活用法、最新の電子顕微鏡操作をはじめ分子疫学的解析手法の習得に励んでいます。千葉



オルガさん

大学はこの方面で世界的に先導的役割を果たしています。

一方、タヤさんは、本国タイの北部に自生し食用にもなる緑藻の一種が初期の直腸ガン抑制効果をもつことに先ず目をつけました。彼女の所属する本国の研究グループはこの緑藻に抗酸化特性があることを突き止め、モデルのラットでは肝臓ガンの抑制に成功したとのことで、彼女は同じモデルで直腸ガンの化学的予防効果について研究を続けてきたそうです。来日の目的は、このガンに関わるタンパク質を同定するためのプロテオーム解析技術の習得に置いています。実は、この技術の中心となる部分はノーベル賞受賞者の田中耕一さんによって開拓されたものだそうです。

出身こそアフリカとアジアと異なっても、2人の立ち位置はそれぞれの母国です。母国の現状を直視し、地道に研究を続けることが楽しみの2人の奨学生と、高い専門性を武器に長い時間をかけて、それぞれ、ケニアとタイで研究協力の絆を強めてこられた2人のホストの先生とのコラボがよい結果をもたらすようご一緒に祈りましょう。

2、3名の奨学生を最長6カ月に限り受け入れる細やかな奨学制度で、募集方法や選考過程の改善充実は変わらぬ課題ですが、国状の制約にも拘わらず未来に目を開き研究に励んでいる女性たちと、ホストの先生方の最新の研究活動に触れることができるのは当委員会だからこそと思います。

奨学生の研究報告会は、アルカディア市ヶ谷で来春2月21日(土)に開催する予定です。誘い合わせてご出席ください。



タヤさん

## ニュージーランド大学女性連盟の リンダ・ロバートソン理事を囲んで

神奈川支部長 市川知恵子

6月17日にニュージーランド大学女性連盟のリンダ・ロバートソンさんを囲んで神奈川支部、国際ネットワーク委員会、社会福祉委員会の有志がかながわ県民活動センターで交流会をしました。その後閑静な料亭で和食を楽しみ、午後は鎌倉を観光して日本文化を堪能しました。

リンダ・ロバートソンさんは、6月8日から横浜で開催された「世界作業療法士連盟大会」出席のために来日。「作業療法」を大学で教える准教授、「公共政策」の理事をNZの大学女性連盟でなさっています。作業療法士の仕事を通してあちらの福祉の様子などを伺いました。IFUWと連携を取りながら海外の連盟と協力して女性の地位向上を目指そうと話合いました。

出席は縄田副会長、児林委員長、鷺見委員長、時枝会員、穂田会員、鈴木紀子会員、齊藤会員、市川支部長でした。



和食を楽しむ

## オーストラリアNFA会員 マーガレット・ボーンホーストさんを迎えて

JAUW 英語読書会モデレーター 時枝 裕子

2014年9月8日(月)午後、英語読書会(定例)に続き、Margaret Bornhorst さまを囲む懇談会がありました。この方はオーストラリア政府の多文化共生コンサルタントで、AFGW 会員です。公務のための研修として、日本を含むアジア諸国の文化を体験する目的で、JAUW に連絡して来られました。そこで山下 CIR のリクエストにより、JAUW 事務所にて、鷺見国際ネットワーク委員長、中村会長ほか英語読書会(IFUW2007総会お茶会ワークショップ実行チームの有志、その後バイブル英語版を通読中)など繰り合わせてきた会員が集まり、アフタヌーン・ティー：兎餅、薄茶(徳の白)、萩焼(仙崎様ご寄贈「宇治十帖」)抹茶碗、薔薇一輪、自己紹介、を楽しみました。われらの課題図書に、このお客様(ローマ・カトリック)が目丸くされたのが、名月の代わりの様な「月見の宴」でした。



M.Bornhorst さんを囲んで

# ヒューマン・ストーリー 第2回

JAUW 元会長 申村 道子

## 中村道子様のごこと

JAWW 代表 田中 正子

中村様は、1年ぐらい前からJAWW（日本女性監視機構）の役員会が夜なので、ご出席にならなくなりました。そこで一度、成城学園前のレストランで役員会をしたことがあります。もちろんとてもお喜びになったうえ、話が、今進めているNGOレポートの作成におよぶと、今年の国連女性の地位委員会で読み上げられたWomen's Rights Civil Society Movementの声明文「Forever Forward, Never Backward」（絶えず前へ、後退しないで）を紹介されて、「後退してはだめ、前へ進まなくては」と励まされました。

中村様は、eメールを駆使して、国連をはじめ国際的な情報をキャッチしては、私どもに転送していただきます。特にアジア太平洋のネットワークをととても大事にしておられます。それは、北京会議の準備段階に参加されたからだと思います。これからの高齢社会は、その内在する脆弱性を克服して強くならなければならないといわれておりますが、中村様の生き方は、そのお手本です。

## 中村道子さんへのメールインタビュー

### Q 1. 大学女性協会にご入会なさったのはいつ頃ですか。

JAUWに入会したのは1949年です。JAUWの理事でいらした山崎文子様にご誘われてのことです。当時JAUWは国際交流の一環として駒場にあった留学生会館へ留学生のための慰問をしていました。そのお手伝いをするを頼まれました。日本を紹介するプログラム及び茶菓を一緒に楽しみました。

### Q 2. 英語力と国際性で先生はずっと貢献してこられました。

JAUWがIFUWの加盟団であることを忘れてはならないと思います。JAUWの会長の時、1979年7/30-8/3にIFUW Circum-Pacific Convention（太平洋地域セミナー）をNWECで主催しました。使用語は英語でした。そのために全国の会員が英語の勉強をしました。

### Q 3. 基準委員長\*を務め、IFUWの「承認大学」枠を押し広げたことで会員獲得に貢献され、会長時代の会員数は2700名超でした。しかし昨今では多くの大卒女性がいる中で会員数は減少、会員資格そのものが勧誘を阻害する一因とさえ見られています。会員資格の意義とは何でしょうか。

JAUWはIFUWの加盟団体であるので、会員の資格は大卒であるべきだと思います。昔は専門学校卒が会員になることができました。この頃短大がだんだんなくなりましたが、私は短大卒を含めた高等教育を受けた者に会員の資格を与えることに賛成です。

会員が減少するのはJAUWのあり方だと思います。この頃、大卒は仕事を持っている者が多く、昼間の会合に出る

ことができません。従って、会合は夜又は土日或いは祝日にするべきです。そして若い者に魅力のある議題及び行動が必要です。

\*1979年にIFUW評議会において、会員資格が文部省の「全国大学一覧」記載の4年制大学卒業生全員と承認されるまで、基準委員会（元・大学基準決定委員会）が中心となり、協会加入希望者出身校の資格の調査、基準の決定を行い、役員会が基準に達する学校を承認していた。



2004年

### Q 4. 90年代からはAPWW（アジア太平洋女性監視機構）の活動に中心的役割を担われています。最近、隣国と論争がありますが、アジアと日本は理解しあえているのでしょうか。先生のアジアへの思いとはどのようなものですか。

過去の戦争で日本はアジア太平洋地域に多大な損害を与え、多くの女性を苦しめたので、日本の女性はアジア太平洋地域の女性の地位向上に尽くす義務があるとの思いで、私はAPWWの活動に積極的に協力することを心がけています。

その関係で2000年にJAWW（日本女性監視機構）が設立されました。政府対政府とは別に女性NGOが政府に働きかけることが必要だと思います。

### Q 5. 最後に、日本の女性運動、あるいは市民としてボランティア活動に携わる女性へのメッセージをお願いします。

女性運動は一人一人の熱意と献身的な努力が必要です。そして一人ではできないことを大勢の同志と一緒に実現させることができると信じています。

Never give up! という言葉で締め括りたいと思います。

## —— プロフィール ——

1919	誕生 11か月で父の転勤のためNYへ	1957-58	国際委員長	その他	
1930	帰国	1960	副会長	1980	第34回国連総会に政府代表代理として出席
1937	東京女子大英語専攻部本科入学	1966-69	基準委員長	1981	第35回国連総会に政府代表代理として出席
1949	JAUW 入会	1976-77	国際第一委員長		
		1978-79	会長		
		1983-89	IFUW 会員委員		

# 本部からの報告

会員100名拡大にご協力！ ―会員拡大委員会の設置―

会長 中村久瑠美

今現在、(一社) 大学女性協会の会員数は約910名。全国25か所の支部会員、全体でも何と1,000名を1割近くも割り込んでいます。平成初年頃は2,500名以上の会員がいたことを思うと、すでにその半分以下にまで縮小化されており、このままでは本会の行く方は?と相当心配してしまいます。

会長に就任して1カ月目の本年6月、私はCIRの山下いづみさんと、シンガポールのIFUWアジア地区会議に出席しました。議題は「会員拡大」。一泊二日間、空港近くのホテルに缶詰めで、アジアのIFUWメンバー30名ほどで行ったワークショップ―これは素晴らしいものでした。何故メンバーは減少化しているのか、どうしたら拡大できるのか、会の活動を魅力あるものにするにはどうしたらよいか。マーケティングセンスを取り入れて、いつまでに何をどう構築するか―矢継ぎ早の質問にメンバー一人ひとりが答えていきます。高等教育を受けた私たち女性が後に続く女性たちに何が残せるのか、何を手助けし、全世界の少女や女性の幸福につなげるか―その前提としてメンバーの拡大が必要なのです。この最終日、私はJAUW会長としてIFUWに対し、2016年5月までに会員100名を増やすと約束しました。もうこれは後に引けません。

これを受けて、早速「会員拡大委員会」を新しく設置す

ることを7月理事会で決定。縄田副会長を委員長に、秋月会員委員長、市川神奈川支部長を副委員長に決定しました。

2014年度の会員拡大実行計画として、まず第一に「ワークショップの開催」をします。シンガポール方式のワークショップをCIR山下理事を中心に全国を東西2か所に分けて行います。

第1回は東日本の支部中心に、2015年1月31日(土) JAUW事務所、第2回は西日本の各支部中心で、2015年2月14日(土) 芦屋市民センターと決まりました。

JAUWは何を目指して何をしたら活性化するか、本会の目的、理念をはっきりさせ、これをどう実現していくかを考えるワークショップです。これまでのJAUWではあまり縁のなかった方式と思いますので、是非会員の皆様お誘い合わせてご参加ください。

第二として、各支部の活性化を図ります。各支部毎に会員数一割拡大をお願いします。また、各支部の活動を「見える化」するため、毎月支部の活動報告を松村支部担当理事にすることを励行してください。

さあ、会員数の一割拡大がこの2年間の目標です。会員を増やすということは、もっと会を面白くすることです。ひとりひとりが友人知人にお声かけをして、JAUWの精神を広く世の中に進めていきましょう。

JAUW 会報アーカイブ(1) ―会報第1号からのバックナンバーがHPにアップされました―

広報委員会

1949年の会報第1号から、今や第253号が発行されるまでになりました。それらはCD-Rにデジタル保存され、この度、ホームページを通して、皆様にも閲覧していただけるようになりました。

今回はその中から、文部省国庫補助事業としてスタートした1981年度「全国セミナー」についてご紹介します。

メインテーマは「80年代を生きる―高齢化社会を迎えて」。6月企画委員会発足後、支部セミナー、地区セミナー(近畿、中国・四国・九州、関東・中部、北海道・東北の4地区)を経て、その締めくくりとして全国セミナーを開催するという段階的に積み上げる方式で行われました。

28支部中20支部が参加した地区セミナーの後、11月、東京新宿の京王プラザホテルで開催された全国セミナーは、2日間で、非会員86名を含む241名の参加を得ました。日本女子大学教授一番ヶ瀬康子氏の講演の他、各委員会からの問題提起、グループ討議などが行われました。

会報には地区セミナー報告「女性と労働、福祉をめぐる」(東京)、「老後を幸せにする会」(長野)、「老人ホーム見学」(札幌)等々、今もなお、興味深いテーマが並んでいます。是非ご覧になってください。(会報123号、124号)



(会報123号より)

委員会・支部事業報告

女性 紛争&平和

主催 東京支部

安保理決議1325の大切さを再確認

IFUW から International Development Manager のキャロラインさんが総会に出席され、その際、ドキュメンタリーフィルム「女性、紛争、平和」のDVDをいただき、この貴重なフィルムの上映会を、東京支部が2回に分けて実施しました。初回はアフガニスタンとコロンビア、次はボスニアとリベリアについて学びました。英語版を青木元会長が東京支部委員として日本語版に通訳しながら説明くださり、難しい問題も判り易く、参加者は理解を大いに助けられました。(牧島悠美子)

7月11日の第1回前半アフガニスタン編では、カルザイ政権下でタリバンの襲撃を受けながらも女性たちが闘っている様子が報じられ、命がけで行動する勇気に圧倒されました。殆どの夫が妻の行動を支配し、夫の同伴なしの外出が不可能である現状にあって国政選挙にひとりの女性が立候補したが、タリバンの攻撃は必至で絶望的な実態であるとの現状は、安全地帯にいる私達には何ができるかが大いに問われると思いました。

後半のコロンビア編では、金鉱の乱開発下、鉱山で働く現地住民への人権侵害の状況報告でした。所有権が全く無視され2万人が家を失い少年たちがギャング団に入り不良化し、村民は死を覚悟して訴えなければならない中、土地の権利を守る為に法律を学ぶ必要があると奮闘する女性に焦点を当てての報告でした。誰もが教育を受ける権利の重要性を再認識、グローバルな女性リーダーを多く生み出すことが重要であると痛感しました。(城倉純子)

10月11日にはシリーズ③ボスニア「今、私たちは証言する」とシリーズ④リベリア「お願い！悪魔は地獄へ戻って」の2本。ボスニアでの民族浄化の名の下に行われた多くのレイプ事件。仲良く暮らしていた2つの民族が憎しみ合い、かつて暮らした事件の地に記念碑を建てにきた女性に、住み移った加害者側の人たちが口々に「帰れ！」と罵る。人間としての自覚や誇りを忘れた悲しさ。また、煙が見える。

リベリアは「もう戦いはいらぬ。平和がほしい」と内戦で揺れる国内でしっかりと手をつなぎ、諦めなかった母親たちの話。宗教などの違いを超え、平和を欲するそのことだけで団結した勇気に頭が下がり、見習いたいと思う。(牧島悠美子)

《第5回街歩き-旧前田邸と東京大学内レストラン》事業委員会A 細田 照子

9月26日(金)秋晴れの中、31名で旧前田邸に。

昭和4年、東洋一の大邸宅と称されたこの建物は、旧加賀百万石前田家の第16代当主前田利為の本邸として、当時の最高の設計者達によりイギリスのチューダー様式を取り入れ建築されました。内部1階は、晩餐会を行う社交の場であり、イタリア産大理石のマントルピース、豪華なシャンデリア、イギリスの家具等当時の華麗な生活が感じられます。又、階段広場の大きなステンドグラスから入って来る柔らかな光は、とても優しく心を和ませます。

第2次世界大戦の中、利為侯が亡くなり一家は他に移り、

パネルディスカッションを主催して

神奈川支部会員 山瀬 恵子

～多文化共生社会における新規入国外国人(定住者)への教育を考える～

過去のインドシナ難民相談員のキャリアを土台に「多文化社会の夜明け」と題して2012年に冊子を発行した。その冊子の内容を聞きたいという会員の希望で、多文化共生社会作りへの取り組みをされている静岡支部の力をお借りして13・14年に神奈川支部で2回、静岡支部で1回の計3回の公開パネルディスカッションを開催した。来場者とも活発な意見交換が出来た。この問題にJAUWとして取り組みが出来るとしたら、以下の提言、啓発活動、資金援助などを候補と考えた。対象は定住者ビザ(日系3世)や永住者の配偶者・日本人の配偶者など公的に日本語学習支援のない外国人に絞る。

自国以外の地で定住するためには言葉の壁・社会制度の壁・文化や習慣の壁を乗り越える必要があるが、いずれも定住する国の言葉が基本になる。①15歳以上で入国する人には全て公的な日本語学習支援があつてしかるべきと思ひ、そのシステム作りへの提言。②公的情報には多言語でのPCサイトがあるが、外国人自身が使い易いように、情報の一元化を模索しているが課題がある。その課題への提言。③外国人の子ども達への義務教育化への提言。子供の教育への親の参加を促す啓発活動。④小学6年までの子にはアイデンティ確立の観点から母語教育の必要性の提言。⑤定住者ビザでの大学生への支援金の新設。⑥永住外国人の高齢化に対処するため外国人ヘルパー人材(福祉分野での人材)の育成。などを考えた。

皆様のご意見を神奈川支部宛にいただけると幸いです。jauwkanagawashibu@yahoo.co.jp(神奈川支部専用)



邸内の一部に中島飛行機の本社が疎開。

終戦後はアメリカ司令官の官邸、その後東京都の所有となり、昨年8月には国の重要文化財に指定されました。

旧前田邸を後にし、東京大学の中にある緑の木立に囲まれた素敵なレストランで、美味しいフランス料理をいただき、思い出に残る1日となりました。



旧前田邸

# 支部だより

## 北から～南から

### 会員の専門分野を活かして 広島支部長 吉村 幸子

まず、8月20日未明に発生した広島土砂災害についてご心配いただき感謝いたします。大きな災害の後、どう再建していくかがこれからの広島の課題です。

Q 最近の支部の活動は？

A 例年、年3回の例会と総会、新年会、本部総会報告会を実施しています。残念ながら今年の第1回の例会(9月予定でお茶会と日本庭園散策)は土砂災害の関係で中止いたしました。今後は12月に自然文化の分野と2月に家庭科教育の課題で実施する予定です。

その他に「広島県の男女共同参画をすすめる会」(県内32団体・個人で構成、当支部も所属)が行った県・市への要望書への意見反映、バザー・映画祭への参加、県が行った「女性が輝く社会に向けた講演会・女性による平和構築」への参加等を実施しました。

昨年度2月に、現在NHKの朝ドラで放送されている「マッサン」の故郷である竹原の散策と、竹鶴酒造での話を伺い、ドラマが始まる前に楽しむ事が出来ました。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 女性行政が推進していく1990年代ころまでの大学女性協会広島支部はまさに女性の人材が豊富で多くの女性団体を支えて精一杯活動し、支部は人材の母港的役割を担ってきました。しかし、現在は会員全員が65歳以上となり、本人の体調や介護等諸事情により、活動の停滞は余儀ない状況です。例会参加者も減少しておりますが、会員が専門分野を活かしながら企画し、会員以外にも参加を呼びかけながら支部活動を続けています。

Q これから力を入れていきたいことは？

A 支部会員は少なくなりましたが、一人一人の活動分野は多彩です。「広島県の男女共同参画をすすめる会」をはじめ、他の団体や機関との連携により活動の幅を広げるとともに魅力的な活動を企画していきたいと思ひます。



研究奨学金贈呈院生を囲んで

### 地域とのつながりを求めて 栃木支部長 増淵 民子

Q 最近の支部の活動は？

A 全国的に、女性団体の多くは会員減少に悩んでいます。当支部が卓話や講演会、小旅行を開催するにしても少人数では会を開けません。栃木支部は、創立当時から、足腰の弱った古い会員によって支えられていると言っていいでしょう。ここ数年、若い会員を迎えても退会してしまいます。理由の一つは、地域との連携がなく、自分の生活の向上に直接返ってくるものがない、ということでしょうか。そこで、永年の念願であった「宇都宮市女性連協」に、当支部は、昨年「JAUWとちぎ」の名で加入しました。縦の行政と横からのニュースが入ってきます。今まで、人数不足で実施できなかった私たちの提案も、すべて受け入れてくれます。10月の事業は、2日間の市の男女共同参画会議に4名が実行委員として参加。そして、被災地訪問2回目の本年は、宮城県女川へ大型バスで行きました。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 日光、那須などの、美しい花、山、紅葉、温泉の観光地。東京駅、宇都宮間は新幹線で50分です。日光、中禅寺湖畔の、かつて“夏の外務省”と言われた多くの大使館別荘のうち、英国大使館が2016年に公開されます。既に公開されているイタリア大使館は、湖畔の美と共に大好評です。元大臣を歴任した森山真弓さんと、現参議院議員の上野通子さんも当支部の会員です。

Q これから力を入れていきたいことは？

A 県、市の女性センターに集まってくる女性たちで、JAUWの名を知っている人は皆無と言ってよいでしょう。(当支部は、大学同窓会と共催で、公開講演会を2回行ったことあるのですが)。高邁で、温和、真面目な JAUW の名を広めるには何が出来るか? 地方からの意識の高い女性たちの集まる場所、例えば、NWECなどで活動したり、メディアにセミナーの報告を売り込んだり、というのはいかがでしょうか。



2012年4月 会議の後、森山真弓さん(左端)と

JAUW 新春のつどい

今年度も、恒例の「JAUW 新春の集い」を下記のように開催いたします。国内奨学金贈呈式は大学女性協会の重要な公益事業の一つです。奨学生による未来への希望と意欲あふれるスピーチは私たちに大きな感動を与えてくれます。今年度の懇親会には2003年度の社会福祉奨学生に選ばれた木村りえさんと、りささん姉妹によるピアノ演奏をお願いいたしました。会員の皆様、また会員外の方々もお誘いあわせの上、多数のご参加をおまちいたしております。

日時 2015年1月10日(土) 11:00~14:30  
 場所 新宿 京王プラザホテル 南館4F「扇」  
 新宿区西新宿2-2-1 03-3344-0111 (代表)

プログラム  
 1部 2014年度 国内奨学金贈呈式  
 2部 懇親会  
 ピアノ演奏 木村りえ、木村りさ姉妹  
 会食、歓談

会費 10,000円  
 申込先 (一社) 大学女性協会 本部事務所  
 Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889  
 E-mail: jauw@jauw.org  
 申込締切日 2014年12月20日 (12月28日までにお振込みお願いいたします。)  
 振込先 三菱東京 UFJ 銀行四谷支店  
 普通預金・口座番号1077777  
 別口 一般社団法人 大学女性協会 理事 中村久瑠美  
 なおキャンセルは3日前までとさせていただきます。

今回も事業委員会のバザーをいたします。どうぞお楽しみに。  
 (一社) 大学女性協会

第13回 自然科学講演会のお知らせ

「免疫反応の指揮者：樹状細胞」  
 講師 稲葉カヨ会員 (科学研究奨励委員会)  
 京都大学副学長、大学院生命科学研究所教授  
 2014年3月口リアルユニネスコ女性科学賞受賞

日時 12月13日(土) 15:00~17:00  
 場所 お茶の水女子大学理学部3号館701大講義室  
 申し込み 12月10日(水)までに JAUW 事務所へ

ウイルスや細菌の侵入を防ぐ、生体防衛機構には、獲得免疫反応と自然反応があり、この2つの免疫反応を繋ぎ、指揮者として働く樹状細胞があります。免疫反応の巧妙さを分かりやすく話していただきます。

科学研究奨励委員会 (東京支部、お茶の水女子大学理学部共催)



**丸大食品** 心に残る贈り物

「丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。」  
 お歳暮・お中元の時期のほか、記念品・新築祝・開店祝  
 御礼・内祝・快気祝・各種景品等ご利用下さい。

丸大食品株式会社 東日本特販営業課 担当:伊藤  
 〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2  
 TEL03(3647)3270 FAX03(3647)3274

お知らせ 事業委員会

《第6回街歩き：銀座の今昔訪ねるコースと  
 クリスマス・イルミネーション》  
 12月17日(水) 11:30~ 参加費 3,500円  
 歌舞伎 於国立大劇場  
 「南総里見八犬伝」 出演 尾上菊五郎 他  
 1月22日(木) 12時開演  
 ※詳細は JAUW 本部事務所か HP で。

社会福祉施設「町田グリア園」見学記 社会福祉委員会 児林 英子

グリアが美しく咲き揃う秋を待って社会福祉委員六名で「町田グリア園」(約2,200m<sup>2</sup>)を訪ねました。

昭和三十九年知的障害を持つ子の親達の手をつなぐ会を結成、六十年「グリア園」を開設、平成二十三年運営主体が社会福祉法人まちだ育成会「かがやき」となり、現在十八才から七十五才までの六十一名が通所。彼等に作業を通して基本的生活を身につけさせることが目的。ボールペンの組み立てやグリア園の管理などで日給七百円が支給され、それを使って自販機で買い物の仕方を覚えるのも学習の一つ。近隣の住人の理解を得、ときにはバスツアーで所外の活動にも参加。高齢化で通所者の今後に課題を残すものの、このように一人一人が尊重され大切にされている様子に感動し、同時に職員の方々のご苦勞も偲ばれました。



グリア園にて

新入会員 理事会承認 2014年7月~10月

札幌支部	佐竹 暁子	東京支部	川崎由紀子
東京支部	秀島たへ子	東京支部	藤川真理子
神奈川支部	渡辺富美子	金沢支部	笠間 昭子
神戸支部	奥山 和子	長崎支部	永吉美恵子

訂正とお詫び 岡山支部 神岡美保子 → 上岡美保子

理事会から

- ▶ 2014年度一般奨学生、安井医学奨学生、社会福祉奨学生が選考され、11月の理事会で承認されました。
- ▶ 会員拡大委員会は、本部、支部をあげて会員増加を目指し、ワークショップの開催、JAUW ロゴ入りクリアファイルの作成、頒布を計画しました。
- ▶ HPのアーカイブに会報とシンポジウム・セミナーがアップされました。
- ▶ 丸大ハムのカタログを同封いたしました。ご協力をお願いいたします。

一般社団法人 大学女性協会  
 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101  
 電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889  
 http://www.jauw.org E-mail: jauw@jauw.org  
 発行人 中村 久瑠美 編集責任者 端本 和子  
 発行日 平成26年11月25日